

## 勝村誠教授 略歴・主要著作目録

### 履歴

1957年7月22日 大阪府守口市生まれ

### 学歴

1976年 岡山県立岡山朝日高校卒業  
1981年 中央大学法学部政治学科卒業  
1989年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士前期課程修了 法学修士  
1995年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修業年限満了退学

### 職歴

1981年～1986年 東京都一般事務職員（公立中学校と都立定時制高校に勤務）  
1986年～1998年 予備校講師、多摩市史編さん専門調査員などの非正規職を歴任  
1995年～1997年 中央大学法学部非常勤講師  
1998年～1999年 東京都多摩市役所市史編さん室職員（編集担当）  
1999年～2007年 立命館大学政策科学部助教授  
2007年～ 立命館大学政策科学部教授

### 学内役職

2001年～2002年 政策科学部学生主事  
2006年～2008年 高大連携推進室長  
2006年～2008年 アドミッションズオフィス室長  
2007年～2009年 教学部副部長  
2011年～2019年 コリア研究センター長  
2013年～2014年 入試副総主査  
2014年～2015年 入試総主査  
2015年～ 国際平和ミュージアム運営委員  
2017年～2019年 教学部副部長  
2020年～ コリア研究センター長

### 学会活動

日本社会文学会・理事  
国際高麗学会日本支部・会員

歴史学研究会・会員  
朝鮮史研究会・会員  
日本平和学会・会員  
初期社会主義研究会・会員

#### 学外研究歴

2004年・2010年 東亜大学校（大韓民国釜山広域市）石堂研究院客員研究員  
2019年8月～9月 延辺大学（中国吉林省）民族学研究所客員研究員  
2020年2月～3月 独立記念館韓国独立運動史研究所（忠清南道天安市）訪問教授

#### 社会活動（現職）

京都府井手町個人情報保護審査会会長  
京都歴史教育者協議会会長  
ウトロ民間基金財団評議員  
学校法人コリア国際学園評議員  
故郷の家・京都支援の会世話人

#### 主要業績

##### 書籍（共著・発行日降順）

『安重根と東洋平和論』日本評論社, 2016. (共監訳)  
『図録 植民地朝鮮に生きる－韓国・民族問題研究所所蔵資料から』岩波書店, 2012.  
『『人民戦線』 解題・総目次・索引』不二出版, 2006.  
『多摩広域行政史－連携・合併の系譜』財団法人東京市町村自治調査会 2002.  
『多摩市史 通史編二 近現代』多摩市, 1999.  
『多摩市史 資料編四 近現代』多摩市, 1998.  
『『科学主義工業』 解題・総目次・執筆者索引』皓星社, 1997.  
『多摩市関係新聞記事目録』多摩市, 1995.

##### 論文（単著・発行日降順）

「ウトロ平和祈念館の展示を通して居住権について考える」『立命館経営学』61（6）（小久保みどり教授退任記念号・鄭雅英教授退任記念号）, 2023.  
「安重根「安應七歴史」「東洋平和論」「聴取書」の「発見」と受容」龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センター・李洙任教授退職記念刊行委員会 [編] 『安重根・「東洋平和論」研究－21世紀の東アジアをひらく思想と行動』明石書店, 76-103, 2022.  
「[資料紹介] 安重根の獄中供述記録「聴取書」を中心に」『コリア研究』立命館大学コリア研究センター（11）41-62, 2020.

- 「日本から見た安重根と東洋平和論」辛晔承編『3・1運動と大韓民国臨時政府Ⅲ 安重根と東洋平和論』東北亜歴史財団, 2020. (韓国語)
- 「民族自決主義と3・1独立運動に対する日本社会の認識変化の研究：新聞と雑誌の論説を中心に」『2019 統一人文学世界フォーラム論文集：3・1運動100周年：抗日独立運動の国際的性格と意味』建国大学校, 2019. (韓国語)
- 「韓日関係と韓国学関連研究センターの現状と活動そして課題」圓光大学校韓中関係研究院・東北アジア人文社会研究所編『海外韓国学研究所の現況と展望：モンゴル・中国・ロシア・日本』43-88, 2019. (韓国語)
- 「安重根義挙と日本の反応—義挙直後の新聞論説を手がかりに」『安重根義士殉国109周年国際学術シンポジウム：安重根義士のハルピン義挙と国内外の反響』独立記念館韓国独立運動史研究所, 84-115, 2019.
- 「川柳作家鶴彬の反戦平和運動」『韓国独立運動史研究』(61) 221-275, 2018.
- 「安重根義士の東洋平和論と東北アジア平和共同体の模索」都時煥編『韓日協定50年の再照明Ⅴ：韓日協定50年の省察と平和共同体の模索』395-419, 歴史空間, 2016. (韓国語)
- 「日韓自治体交流の現状と課題について：職員相互派遣の可能性の展望」『環東海レビュー』(韓東大学校環東海経済文化研究所) 8 (1), 23-48, 2012. (韓国語)
- 「軍港舞鶴の記憶とローカル・アイデンティティ」『海港都市文化交渉学』韓国海洋大学国際海洋問題研究所 (2), 167-182, 2010.
- 「安重根の東洋平和論」『歴史地理教育』歴史教育者協議会 (754), 64-69, 2010.
- 「安重根と朝鮮植民地支配について」『歴史地理教育』(753), 72-77, 2010.
- 「中西伊之助文学における朝鮮」木村一信・崔在喆編『韓流百年の日本文学』104-120, 人文書院, 2009.
- 「大正・昭和期の朝鮮—中西伊之助」『社会文学』(29), 28-37, 2009.
- 「中西伊之助の植民地観—『楮土に芽ぐむもの』を手がかりに」『日本文化研究』東アジア日本学会 (韓国) (14), 7-28, 2005.
- 「地域政策の源流」村山皓・川口清史編『政策科学の基礎とアプローチ』70-81, ミネルヴァ書房, 2004.
- 「京都市の行政計画における市民参加の位置付けとその実態」大学コンソーシアム京都編『行政計画の策定・遂行のマネジメントシステムに関する研究』59-69, 2003.
- 「多摩ニュータウン研究の〈これまで〉と〈これから〉—開発への視座と課題について」パルテノン多摩『【企画展】多摩ニュータウン開発の軌跡』(展示図録), 1998.
- 「多摩ニュータウン開発計画の決定過程について」『多摩ニュータウン研究』多摩ニュータウン学会 (1), 13-31, 1998.
- 「地域にそくした近現代史研究への接近—八王子市東中野地域のフィールドワークより」『多摩学会』(8), 1998.
- 「都市化と地域の自治権の再編に関する史的考察：東京市域拡張前後の品川地域の事例にも

- とづいて』『法学新報』中央大学法学部, 101 (8), 177-199, 1995.
- 「多摩ニュータウン計画と地元側の対応について－開発計画の決定と計画区域の変更を中心に」『ふるさと多摩 多摩市史年報』(6), 10-28, 1994.
- 「『労働世界』時代の加藤勤十：第一次大戦後の労働運動に関する一考察」『中央大学大学院研究年報：法学研究科編』(22), 163-175, 1992.

## 書評

- 「黒川伊織 著『戦争・革命の東アジアと日本の коммуニスト：1920—1970年』 壮大なスケールで描く東アジア共産主義運動の叙事詩」『初期社会主義研究』(29), 276-280, 2021.
- 「1965年の「曖昧な妥結」をのりこえ、植民地支配認識を問い直すために 吉澤文寿『日韓会談 1965：戦後日韓関係の原点を検証する』」『平和研究』日本平和学会 (46), 111-116, 2016.
- 「石塚裕道『日本近代都市論』」『東京研究』東京自治問題研究所 (1), 173-176.

## 翻訳 (韓国語⇒日本語・発行日降順)

- 金度亨「尹奉吉の思想と独立運動の戦略」『コリア研究』(9), 83-97, 2018.
- 金祥起「尹奉吉義士の金沢殉国と顕彰事業」『コリア研究』(9), 99-113, 2018.
- 呉瑛燮「安重根の義兵運動」李泰鎮＋安重根ハルピン学会(編著)『安重根と東洋平和論』日本評論社, 44-76, 2016.
- 趙成雲「韓国高校歴史教科書における東学農民運動の叙述の変遷」『コリア研究』(6), 47-69, 2015.
- 李浩龍「植民地期の朝鮮アナキストによる共産主義批判」『トスキナア』12, 15, 16, 2010～2012.
- 盧重琦「韓国における労働の危機と民主主義—民主化 20年、残された課題」『コリア研究』(2), 125-139.
- 洪淳権「1910～20年代釜山府協議会の構成と地方政治—協議会の任命と選挙の実態分析を中心に (1)・(2)」『政策科学』16 (1)・(2), 2008・2009. (宋蟬營との共訳)